援助要請態度と自己愛との関連性について

太田 仁・阿部晋吾

(梅花女子大学 心理こども学部 心理学科)

キーワード: 援助要請態度・関係志向性・自己愛的自己調整

Relevance of narcissism and help-seeking attitudes

Jin Ota・Shingo Abe

(BAIKA Women's University)

Key Words: help seeking attitudes, relationship orientation, narcissistic self-regulation

目 的

援助要請は、コストと利得のバランスにより実行される(相川, 1989)。対人行動におけるコストに否定的応答があり、利得に他者からの承認がある。援助要請に先立つ日常の対人行動の中で他者からの否定的反応を避け、承認を得る可能性を付度していることが予見されている(永井・新井, 2007)。このような傾向は、欧米に比較して東アジア地域で多くみられる関係志向的援助要請(Kim et al, 2008)と言えるもので予め関係性が確認された他者との間での援助要請が他者のコストを最小限とし、両者の関係性を再確認する意図でなされていることを示唆するものである。この知見は対人関係において否定的な反応を忌避することが優先される東アジアにおける相互協調的自己観(Markus & Kitayama, 1991)とも呼応する。こういった、他者からの承認を意図した援助要請は肯定的な自己評価を維持するための認知的・行動的自己方略をとる自己愛的自己調整機能(Morf & Rhodewalt, 1993)からの影響をも示唆してと考えられよう。上記の観点から本報告では、援助要請態度尺度(太田・阿部, 2012)を用いて援助要請と自己愛傾向との関連性を検討する。

方 法

調査対象; 19歳~78歳までの男性350名・女性473名
調査時期; 2011年12月上旬~2012年1月上旬
質問紙; 1)性別、年齢(22歳未満、23-35歳、36-45歳、46-65歳、66歳以上)婚姻の有無・子どもの有無を尋ねる質問項目、2)援助要請態度尺度(太田・阿部, 2012)20項目、3)自己愛人格目録短縮版(NPI-S 小塩, 1999)30項目の各項目に対して「あてはまらない」~「非常によくあてはまる」までの5件法にて回答を求めた。
実施方法; 大学生123名に各年代の男女に質問紙を配布させ回収させた。

結 果

援助要請態度尺度4因子「援助要請忌避($\alpha=.781$)」「関係志向的援助要請($\alpha=.773$)」、「依存性的援助要請($\alpha=.685$)」「自律的援助要請($\alpha=.672$)」を下位尺度とし各下位尺度平均値を性別・年齢層ごとに算出調査対象者ごとに算出した。次に、NPI-Sの30項目について因子分析(主因子法、プロマックス回転)を行い得られた3つの下位尺度については、小塩(2002)に準拠し「優越感・有能感($\alpha=.884$)」「注目・賞賛欲求($\alpha=.843$)」「自己主張性($\alpha=.820$)」とした。援助要請態度尺度の下位尺度とNPI-Sの下位尺度との相関をTable1に示す。

考 察

年代別に援助要請態度と自己愛の性差について検討する。22歳までの年代では、援助要請に対する忌避的態度は統計的には有意ではないものの負の関連性を示している。女性の関

係志向的援助要請態度が「優越有能」「注目・賞賛」自己愛と有意に関連していることや「自律的援助要請」態度と有意な正の相関を示していることから自己の評価維持的な方略として自己愛が機能していることを示唆するものといえよう。35歳から44歳まで男性については援助要請忌避と自己愛とは負の相関を示しているが45歳以降の男性では正の相関を示すようになる。このことは、高田(2002)で指摘されたように働き盛りの年代の男性において相互協調的自己観の確立による2次的反映過程として解釈が可能であろう。65歳以降は、定年後自己愛が再び自己調整機能により特に女性において関係志向的援助要請と自己愛の間に有意な関連性が生じていると考えられる。

Table 1 援助要請態度と自己愛の関連性

age	要請 態度	男性 自己愛傾向					女性 自己愛傾向						
		n	優越	注目	主張	mean	SD	n	優越	注目	主張	mean	SD
18	忌避	70	-.215	-.071	-.169	11.3	3.91	139	-.125	-.014	-.129	11.1	3.95
	関係	71	.016	.064	.038	14.8	4.11	139	.292**	.278**	.164	15.8	3.58
22	依存	71	-.076	.079	-.151	9.6	2.93	139	-.103	.127	-.087	10.5	2.43
	自律	71	.075	.135	.242*	11.4	2.23	138	.254**	.321**	.335**	11.8	2.42
23	忌避	71	.002	-.053	-.045	11.8	4.20	87	.177	.004	.137	10.9	3.80
	関係	71	.111	.311**	.121	13.7	3.66	87	.107	.140	-.014	15.4	3.54
35	依存	73	-.064	.171	-.156	9.0	2.62	87	-.119	-.073	-.084	9.6	2.58
	自律	72	.224	.391**	.241*	11.4	2.23	86	.144	.069	.157	12.1	2.06
36	忌避	59	.182	.274*	.126	12.2	4.22	80	-.137	.076	-.076	10.7	3.72
	関係	59	.371**	.544**	.261*	14.0	4.17	80	.243*	.064	.002	15.6	3.45
45	依存	59	-.021	.245	-.120	8.7	2.67	80	.025	.128	-.015	9.3	2.22
	自律	59	-.003	.214	.037	11.2	2.62	80	-.093	-.164	-.025	12.3	1.90
46	忌避	90	-.042	.008	-.228*	12.5	3.86	103	-.140	.045	-.122	10.6	3.88
	関係	89	.147	.028	.174	14.2	3.70	103	.234*	.296**	.239*	15.4	3.59
65	依存	90	-.251*	-.085	-.202	9.0	2.51	103	.094	.282**	.019	9.7	2.70
	自律	89	.291**	.086	.361**	11.2	2.33	102	.271**	.225*	.215*	12.2	1.74
66	忌避	57	.446**	.456**	.202	13.9	3.78	64	.390**	.564**	.485**	13.2	4.54
	関係	56	-.082	.065	-.011	15.1	3.78	64	.448**	.380**	.230	16.7	3.62
	依存	57	-.144	-.021	-.221	8.5	2.39	64	.126	.241	.411**	10.4	2.74
	自律	57	-.015	.034	.032	11.6	2.36	63	.272**	.155	-.008	11.9	2.32

* $p<.05$ ** $p<.01$

引用文献

- Kim, H. S., Sherman, D.K., & Taylor, S. E. (2008). Culture and Social Support. *American Psychologist* Vol. 63No. 6, 518-526
- Morf, C. C., & Rhodewalt, F. (1993). Narcissism and self-evaluation maintenance: Explorations in object relations. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 19, 668-676.
- 太田仁・阿部晋吾 (2012). 援助要請態度と援助者の探索過程. 日本心理学会第76回大会発表論文集 1 AMB35